

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- 生活科の学習において、1年生、2年生の児童が、ウサギの生態や飼育について学ぶことを通して、ウサギを「かわいい。」「命あるものを大切に飼育したい。」という気持ちを養いました。



1年生、2年生の児童が自分の手から直接餌を与えているところ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの飼育に関する学校担当獣医師と連携をした実践を3回行いました。
 - 1回目は、ウサギの生態、ウサギとの接し方について
 - 2回目は、実際にウサギに自分の手で、餌を与える授業
 - 3回目は、自分の手で、餌を与えた時のことを振り返っての授業
- 写真は、2回目の学習で、学校担当獣医師の支援の下、児童が自分の手から餌をウサギにあげているところです。

【児童の反応】

- 学校担当獣医師と連携した1回目の学習では、「ウサギの耳はどのようにして長いのだろうか。」「ウサギは大きな音が嫌いだから、静かにしないといけない。」など、ウサギや飼育方法についての疑問や感想が児童から上がり、ウサギに対して、興味が高まりました。
- 2回目の学習では、「ウサギを驚かせないように静かにしなければいけないんだよね。」「ウサギが、自分の手から餌を食べてくれてうれしかった。」「ウサギはふわふわしていて、温かった。」「ウサギが少しずつ自分の方に近寄ってきた。」といった意見を言うなど、直接、ウサギに触れることで、親近感が増しました。

- 3回目の学習では、人の手から餌を食べているウサギと、ゲージの奥にいるウサギの様子
の違いから、「ゲージの奥にいるウサギは、耳がピンと立っていて警戒しているのかな。」
と、ウサギの様子を観察し、ウサギの気持ちを考えるようになりました。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

- モルモットの関わり方について、学校担当獣医師が児童とモルモットの触れ合い場面を参観後、モルモットが安心できる抱き方やストレスを少なくする方法を話して頂きました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、人間、ウサギ、モルモット、カメレオンの心臓の音を聴くことを実施しました。



モルモットの抱き方の指導を受けている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師と複数回の打合せを行い、当日の流れや、学校で準備できるもの、授業会場の確認をしました。
- モルモット飼育の引継ぎの際は、1年生の保護者へ事前にアンケートをとり、アレルギーの有無について確認しました。

【児童の反応】

- モルモットの正しい抱き方を知ることで、怖がらずに自信をもってモルモットを抱ける児童が増えました。
- ふれあいの際のブラッシング、鳴き声の聞き分けなど、実践を通してモルモットがリラックスしている様子を把握できるようになりました。
- 心臓の音を聴き比べて小動物の命の大切さを多くの児童が実感することができました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

<1年生>

- うさぎの特徴、体のつくり、触るときの注意点、餌、心臓の音などについて学習しました。写真で説明を受け、実際にどの部分を持って触ればよいか、触るときの姿勢など具体的に指導を受け、実践しました。



学校担当獣医師から直接指導を受けている児童

- うさぎを観察するときのポイントの指導を受け、学習したことを、子供が絵と文で表現しました。

<2年生>

- ペットなどを含めた動物に関する話もしてもらい、動物にも命があること、それを守っていけるのは人間しかないことなどを教わりました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

<1年生>

- 学校公開で授業を実施し、保護者にも児童が学校担当獣医師から指導を受け、体験活動をしているところを参観してもらいました。実際に獣医師から学ぶことができ良かったという声がありました。

<2年生>

- 子供が教わったことを家庭で話すようにし、みんなでペットなどの動物を大事にしていこうという気持ちの輪を広げました。

【児童の反応】

<1年生>

- 学校担当獣医師から直接話を聞くことができ、興味関心をもって学習活動に取り組みました。

<2年生>

- 自分が飼っているペットや学校のウサギを大事に育ててあげたいという気持ちが子供たちに育ちました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

- 1～6年生まで、全ての学年が動物とふれあう活動ができるよう実践を行いました。
- 3年生は烏骨鶏、4年生は山羊、5・6年生の飼育委員会はウサギの世話を担当しています。1・2年生は飼育委員会の児童から世話の仕方を教わりながらふれあい活動を進めていく方法で取り組みました。



学校で飼育している山羊

【児童の反応】

- 各学年1回ずつ学校担当獣医師から、指導を受けました。1年生はウサギ、2年生はウサギと烏骨鶏、3年生は烏骨鶏、4年生は山羊、5・6年生の飼育委員会の児童はウサギの世話について学びました。また、5年生は「命のつながり」6年生は「獣医師の仕事」について、それぞれ授業を受けました。
- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師から指導・助言を受け、ウサギの体や習性、世話の仕方を学びました。



獣医師からウサギの心音を聞かせてもらう児童

【児童の反応】

○ 1年生は「なぜうさぎのマロンは、だっこさせてくれないの?」と、学校担当獣医師の先生に質問をし、ウサギの習性や環境の大切さを教わりました。また、3年生の担当する烏骨鶏について、心音を聞かせてもらい、正しい抱き



ウサギの世話をする飼育委員会



獣医師の話聞く児童

方や、関わり方について学びました。烏骨鶏にとって苦しくない抱き方を教わり、他学年に教えたいと話していました。